



元気っ子

No 306 ながさわ保育園

園長 中瀬 弦 偉

1月末の大雪は皆さんの生活にも大変なご苦労が生じたのではないのでしょうか。また、保育園への送迎についてもご面倒をお掛け致しました。そのような中、雪掻きをお手伝い下さいました保護者の方には心よりお礼申し上げます。ありがとうございました。

1月の「成人の日」に作家鴻上尚史さんが以下のような投稿をされていました。

「成人の日によせて」

成人おめでとう。でも、「大人になる」はどういうことでしょうか？

僕は、親や先生や先輩や友達の意見にただ従うのではなく、「あなた自身の頭で考えること」だと思っています。自分の人生を自分で決めるということですね。

けれど、これはとても難しいことです。だって日本の若者達はずっと「自分の頭で考えるな」という訓練を受けてきたからです。

日本の多くの中学校や高校では「中学生らしい」「高校生らしい」服装や髪型にしようと言われています。けれど、「高校生」というイメージは、様々です。それぞれの人の頭には、それぞれのイメージがあります。それを「高校生らしい」という一言でまとめるということは、「考えるな」ということです。

リボンの幅が3センチは「高校生らしい」が4センチになると「高校生らしくない」ということを論理的に説得できる大人はいないと思います。

僕は愛媛県出身ですが、「愛媛県人らしい服装をして下さい」と言われたら、絶句すると思います。あなたも「出身の都道府県人らしい格好をして欲しい」と言われたら混乱するでしょう。

それと同じくらい「高校生らしい服装」というのは定義不能なのです。

「服装の乱れは心の乱れ」という日本中でくり返される標語がありますが、大人に気付かれぬように巧妙にいじめる奴らの服装は乱れているのでしょうか。陰湿な奴ほど、ちゃんとした服装をしていじめることをみんな知っています。

黙ってブラック校則に従え、疑問を持つなと教えられて来たのに、成人する時にいきなり「自分の頭で考える人になって下さい」と言われるのです。ずっと「一人で泳ぐな！」と言われてきたのに、成人したらいきなり「一人で泳げ！」と言われるようなものです。それは無理です。僕は日本の若者に深く同情します。

が、嘆いてもしょうがないです。自分の頭で考える訓練を始めるしかありません。そのためには、本を読んで下さい。僕達は、国語の授業でずっと「退屈な本ほど価値がある」と思い込まされてきました。でも、ワクワク、ドキドキしながら、本当面白く、あなたの生き方の役に立つ本が間違なくあります。本屋さんに行って、面白そうに感じた本の最初の1ページをとりあえず読んで下さい。つまらなければ、すぐに次の本に移ります。それでいいのです。何十冊とくり返すうちに、あなたにぴったりの本がきっと見つかります。読書は作者との対話であり、あなたの考えを深めます。やがて、「自分の頭で考えること」が身につくようになるのです。さあ、成人して、やっとあなたは自分の頭で考えていい世界に来たのです。

鴻上尚史さんは、「自分の頭で考える訓練」を読書によって培って行って下さい。と述べられています。

現時点ではこの方法はとても効果的なのだと思います。しかし、そもそもを辿れば、小さいうちから「自分の頭で考える訓練」がされていれば、成人してからわざわざ訓練をする必要はないはずです。このことは先月の「元気っ子」でもお話させて頂きました、保育所保育指針の保育目標「子どもたちが望ましい未来をつくり出す力の基礎」となる資質、つまり「批判的思考力（吟味力）」などの非認知能力の育成が乳幼児期においていかに大切かということがよく分かります。

保育園では様々な場面で「自分で考える」環境を用意しています。幼児棟入口にある大きなホワイトボードでの主活動の選択やセミバイキング方式を取り入れている昼食などがそれに当たります。迷いながら見通しを持ったり、予測をしたりしながら自己決定を日々くり返しています。当然、ミスチヨイスもします。でも、そのミスチヨイスの経験も含めて、くり返し行っていくことが大切なのだと思います。そして、この積み重ねこそが「自分の頭で考える訓練」なのだと思います。

乳幼児期の保育の成果は小学校ですぐに現れるものではありません。それこそ成人になるくらいの時期になって現れてくるのかもしれませんが。また、教育改革も行われていますが、抜本的な改革とまではいっていないのが現状だと思います。かと言って、鴻上尚史さんもおっしゃられる通り、嘆いていても仕方がないのです。私たちにできること、「子どもたちの最善の利益」を保障し、「子どもたちが現在を最も良く生きる」環境を常に見直し続けることを、過去の慣習に囚われることなく大切にしつつ、日々、子どもたち一人一人と向き合っていかななくてはならないと思います。

今月は生活発表会があります。子どもたちの成長をお楽しみ頂けたらと思います。

